

平成21年10月9日

## 瑞浪超深地層研究所の施設活用について

超深地層研究所跡利用  
検討委員会事務局

昨年度に実施された第8回の超深地層研究所跡利用検討委員会（平成20年11月28日）において、瑞浪超深地層研究所（以下、「研究所」といいます）における体験学習への取り組み状況と深度200mの研究坑道の活用方策等をご報告させていただきました。

今回は、本委員会以降の研究所における体験学習への取り組み状況と深度300mステージの活用方策の実施状況と前回の委員会でご意見をいただいた研究所見学アンケートの集計結果について紹介させていただきます。

## 1. 研究所における体験学習への取り組み

## ① 高校生を対象とした先端科学体験

高校生のための先端科学体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ」を平成21年8月に開催しました。「感じてみよう!!地球のすがた～地下の世界を探る～」と題したテーマのもと、日本全国から高校生が参加して地層や地震・火山などの地球科学について学びました。

また、文部科学省が進める科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定された高校の研究所見学の受け入れも行いました。



サイエンスキャンプ



SSHの施設見学

## ② 施設見学会

施設見学会を毎月1回（原則：第4日曜日）開催していますが、地下の世界をより多くの人に体験していただくため、入坑機会の拡大を行いました。今までの毎月1回の見学に加え毎週月、水曜日（原則：12時から13時）を追加しました。なお、平成20年11月から平成21年9月までに、約2,909名（うち入坑者数：1,444名）の方々にご見学をいただきました。

### ③各イベントへの協力及び報道関係等

サイエンスワールド主催の「サイエンスフェア」等、各イベントへの協力を行いました。また、「地下 300m の坑道の完成」や「地下を知る技術を開発」等の新聞記事も掲載されました。



サイエンスフェア

## 2. 研究成果等の情報発信

### ①地層科学研究 情報・意見交換会の開催

東濃地科学センターで実施している地層科学研究の研究成果の紹介を毎年行っています。平成 20 年度は約 180 名の方々が参加されました。



平成 20 年度情報・意見交換会

### ②壁面スケッチデータを用いた展示等

研究所の地下深くの様子を分かりやすく楽しく学べるように、研究坑道の実際の壁面スケッチデータを利用した坑道模型及びペーパークラフトの製作を行いました。



壁面スケッチペーパークラフト

## 3. 深度 300m ステージの活用状況

### ①深度 300m ステージでのパネル展示

深度 300m ステージの研究アクセス坑道に「深度 300m ステージのレイアウト」「深度 300m ステージの研究計画（案）」「物理探査説明」の各パネルを、深度 300m ボーリング横坑（換気立坑）に「水圧モニタリング説明」のパネルを設置しました。



深度 300m ステージでの説明パネル

### ②地層露出部分の設置

地層や地下水を見て触れることができるように、深度 300m 研究アクセス坑道及び深度 300m ボーリング横坑（換気立坑側）に地層の露出部分を整備しました。また、研究アクセス坑道では、湧き出している地下水に触れることができるようになっています。



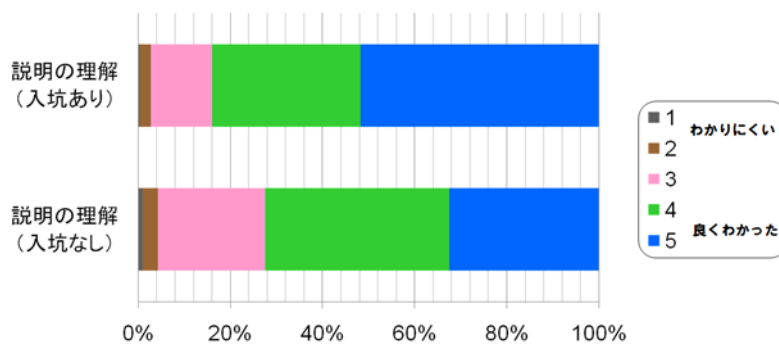
地層露出部分と  
地下水が湧き出ている部分

#### 4. 見学者アンケート集計結果

研究所へ見学に来られた方に対し地層科学研究についての理解を深めていただけるようにするため、説明内容や地層処分に対する考え方についてのアンケートを実施し、その結果を分析しました。その結果、地層処分や地層科学研究について理解を促進するために、入坑しての見学は有効であることや、入坑の有無に関係なく見学によって地層処分に対する印象は向上することがわかりました。

今後は、見学者に対して効果的な対応になるように、アンケートの方法の改善などを行っていきます。

見学者アンケート



入坑見学の有無による説明内容の理解の程度についての比較

#### 5. 今後の施設活用について

研究所では、引き続き体験学習の場として活用するとともに、深度 300m ステージの活用について「研究についての理解醸成の促進」や「外部機関の利用の促進」などの検討を行っていきます。

以上